

地域社会を核とした教育と研究のつながり： 単元の構造図の作成と授業実践および授業分析を通して

保健体育講座・糸岡 夕里

1. 「保健体育科教育方法の探求2」 の概要

本授業では、まず、単元構造図の作成手順について理解を深める。次に、体育授業の組織的観察法として、体育授業場面、教師の相互作用行動の分析方法について理解し、その分析結果より目指すべき体育授業の姿について理解を深める。

そして、作成した単元構造図を実際に、附属高校を対象に授業実践を行い、体育授業場面と教師の相互作用行動の分析に加え、評価基準を用いた技能の変容について分析する。

授業のまとめとして、実践した授業について、分析結果を踏まえた考察を行い、授業改善を図る。

【授業の目的】

本授業の目的は、「保健体育科教育実践の探求」の授業をふまえ、よい授業の探求を目的に、保健体育科の効果的・効率的な教育方法を探求することである。

【授業の到達目標】

- ① 保健体育科の授業づくりにおける効果的・効率的な教育方法について説明できる
- ② 根拠に基づいた授業分析をふまえ、授業改善をすることができる
- ③ 主体的に授業研究に取り組み、授業の意図や改善案について意見を述べるができる

2. 「保健体育科教育方法の探求2」 の授業内容

単元構造図を作成するにあたり、高校3年生のバスケットボールの授業を対象として授業実践を行うこととした。そのため、学習指導要領の理解を深めるとともに、これまでの学習経験について確認を行った。

その後、単元目標を設定し、本授業を履修する2名の院生が、それぞれに単元構造図を

作成した。したがって、単元を通して授業の展開は異なるものの、単元後には生徒に同様の学習成果（目標達成）が保証できるようにした。

3. 授業評価

本授業の授業評価として、院生の省察レポートの一部を□□内に抜粋した。なお、授業分析の1つとして実施した技能の変容について、いずれも同等の学習成果が保証できたことが確認できた。

以下より、本授業の目的である効果的・効率的な教育方法の探求が達成できたと考えられた。

(1) 単元構造図の作成について

単元構造図の特徴として、学習活動の中に指導内容を明記するとともに、評価の時期を計画することが挙げられる。

以下の省察レポートより、単元構造図を作成するために一定の時間は必要となるが、一度作成してしまえば、事後は微修正を加えていくだけでよいため、効果的・効率的な指導と評価が可能になることがうかがえた。

・授業の内容が、生徒の実態から計画通りに進行していないと思ったとき、評価の時期を計画していたことにより、そこに向けて授業を修正することができ、指導と評価をスムーズに実施することができた。

(2) 組織的観察法について

本授業で分析した体育授業場面について、学習指導場面、マネジメント場面はできる限り少なくし、運動学習場면을50%以上確保することが指標とされている。

・7時間目までの結果を見ると学習指導場面の時間が30%を超えており非常に多い。学習指導場面の割合が多くなった原因として、準備不足が挙げられる。